



# なすびの花

## 品質パトロール

昨年末まで、ISO事務局を含む工場パトロールメンバーで、月に一度、『品質』と『環境』『安全衛生』の3つを組み合わせた『工場パトロール』を、長年行ってまいりました。

直近の1〜2年間は、品質面では、製造工程や他部署でも、仕組みが確立され、うまく回っていたため、『品質』よりも、『安全衛生』や『災害』、『人権』についてのテーマでパトロールを行うことが、多くなっていました。

『品質パトロール』単体として、工場パトロールよりも以前から、行っていました。長く続く間に、製造現場も安定し、適切な指摘が減っていき、マンネリ化してしまったように思います。

先月号でも触れていますが、現在、新工場移転という、とても大きな4M変動に直面しています。

そこで先月上旬に、  
「品質パトロールを再開してください」

という社長からの指示があり、4月より再開することになりました。

品質パトロールの本来の目的は、不適合や事故の未然防止です。

顧客要求品質と設計品質、製造品質と安全性を確保できることを確かめるためのパトロールを行います。

製造現場には、QSDCM(品質・安全・納期・コスト・人材育成)という5つの要素があります。

この要素を達成するべく工程が作られていることを頭に置いてパトロールをしなければ、見当違いな指摘をしてしまうことになってしまいます。

今回の社長指示を受けて、製造課長より、新しい『品質パトロール』の提案がありました。

社員・契約社員・パートさんと、会社全体で取り組むパトロールとなる予定です。

品質に対する全員の意識を底上げし、不適合ゼロを目指すことが目的です。

その他にも、新工場に移転し、本社と第二工場の人員が集結したことで、『衛生委員会』が作られ、『衛生パトロール』を、安全衛生委員会が行うこととなっています。

こちらは、労働安全衛生法により、50名以上の労働者のいる職場で義務付けられている、労働環境改善のためのパトロールとなります。

また、ISO事務局では、昨年までと同様に、品質・環境のしくみの適合性を確認する『ISOパトロール』を、年間4回実施しようと考えています。

以上の3つのパトロールを4月より実施することになります。

皆様のご理解とご協力を、よろしく申し上げます。余談ですが、検査課では、毎年お客様の監査を受けていて、課員にもその対応力を付けるため、今年度実施している課内教育計画に、課内自主パトロールの訓練を入れています。

一年間の訓練では足りないのです、来年度も引き続き、監査への対応力を身に着けるための勉強会を行う予定をしています。

## サイレントチェンジ

以前、お客様から、『サイレントチェンジ』に関する文書をいただきました。

『サイレントチェンジ』というのは、発注している製造会社が知らない間に、発注先の部品メーカーなどが素材や材質、仕様などを、発注元の許可なく勝手に変更してしまうことを言います。

文書をいただいたお客様では、発注元の部品の素材や材質、仕様などのサイレントチェンジの原因として、次の4点を挙げられていました。

原因① 「仕様変更」に対するメーカー様との認識の食い違い

原因② メーカー様での4M変更のしくみ不足

原因③ 外注先への指導不足

原因④ 組織的なサイレントチェンジ

『サイレントチェンジ』は部品メーカーの問題のように見えますが、原因の4つを自分たちに置き換えて、自分たちの品質問題として考えることもできますね。

「お客様からの要求を知らなかった」

「間違えて理解していた」

などなど…。

作業内容を間違えて理解していたり、コミュニケーション不足により真意が伝わらないといったことが原因で、不具合が起きる可能性もあります。

分からないことや、あやふやな指示については、リーダーさんや管理者に、しっかりと確認し、理解できた上で作業にとりかかります。